

～「お腹すいた？」そんな時は、ポチっとひと押し！～

下関市総合政策部国際課  
(青島市派遣職員)  
和木田 真功

今回のテーマは、「デリバリー」です。現在、携帯ひとつで様々なものをデリバリーしてもらえる、今中国で大人気のアプリの実態についてご紹介します。

### 若者から老人まで皆が利用する「外卖（デリバリー）」

家のポストにピザなどの出前のチラシがよく入っていますが、今中国では携帯のアプリ一つで出前を注文することが出来ます。驚くべきはその加入店舗数です。マクドナルドやケンタッキーなどのファストフードから、なんと鍋に至るまで注文することができます。現在、多くの店はこのデリバリーに対応しており、「今日は韓国料理が食べたいな。」と思い検索すれば、多くの韓国料理が画面に表示されます。

アプリ専用の配達員が街中をバイクに乗って駆け回り、注文を受けた店に商品を取りに行き、その後自宅に配送してくれます。配送料は店舗によって異なりますが、4元～6元（100円前後）とさほど高くはありません。店舗によって「何元以上で配送可能」といった最低価格は定められていますが、一人で食べきれない量を頼まないといけないといった心配はありません。

### 進む高齢化にもうまく対応

さて、加入店舗が多く、非常に便利なデリバリーですが、デリバリーできるのは料理ではありません。お肉や野菜、ビールなど幅広く対応しています。これは足腰などが悪い高齢者にとって、携帯一つで買い物ができることから非常に重宝されています。いまや携帯一つでできないことのほうが少ない中国では、高齢者のスマートフォンの使用率も高く、生活必需品となっています。

### 経済効果と市場の成長

「2016-2017 中国デリバリー市場の研究報告」（i i M e d i a R e s e a r c h 発行）によるとデリバリー市場の規模は1662.4億元（約2兆7千億円）であり、市場の成長率は23.1%と昨年同時期と比べ大幅に下降したと発表されました。同社の分析によると、デリバリー市場は現在安定期に入っており、将来は現在のユーザーの消費拡大や、既に登録はしているが利用していないユーザーへの利用促進を進める必要があるとしています

### 実際に使ってみました

まずは専用アプリをダウンロードし、住所等必要事項を入力します。その後は食べたい料理や、好きなお店を検索し、食べたい料理を決めたら会計へ進みます。会計はクレジットカードもしくは電子マネーで行います。様々な割引などもあり、初回利用時はほぼ半額で利用することが出来ます。その後は、「注文受付完了」や「配達員が商品を受け取った」などといった、今どういった状態であるかを逐次見ることが可能です。また、配達員が商品を受け取った後は、配達員の現在地を地図に表示し、大体どのくらいで到着するかなど知ることが出来ます。



▲街中を駆け回る配達員